



# ノアの爽風 かぜ



～目次～

- 病院短信『ポストコロナ・ウィズコロナの傾向と対策』 黒川 胤臣
- 介護だより 小山内 のぶ子
- 日常の一コマ 佐藤 美沙子
- 作業療法科だより 吉田 祥子

## 12月の予定

- ◆誕生日会 各病棟にて
- ◆キャンドルサービス

## おやつバイキング



いつも大好評のおやつバイキング  
今回も患者さん達は満面の笑み。



## 介護だより

1病棟 介護福祉士 小山内 のぶ子

一年の締めくくりでもある12月。新年を迎えるための準備や年内に終わらせたい仕事などで忙しい日々を送る方も多い事でしょう。忙しさのあまり気が付いたら年末だった・・・ということもあるかもしれません。今年も残りわずかとなりますが、皆様が良い年を迎えられますように。





『ポストコロナ・ウィズコロナの傾向と対策』

日本では新型コロナウイルス騒動は鎮静化の兆しが見えてきているようですが、第6波の可能性も危惧されています。外国では既に変異株が流行している国もあるようです。当院では幸いにもいままでのところ、入院中の患者さんには感染者は皆無です。これは当院職員の地道な努力と、患者さん家族の面会自粛の協力が大きい要因とされます。世間ではポストコロナやウィズコロナによる後遺症や、ワクチンの副作用問題が取り上げられるようになり、その対策も検討されていますが、未だ不十分なようです。

コロナの鎮静化に新しいワクチンが効果的であったと思われませんが、これは予防対策であって治療法ではないので、ワクチン接種や一度感染したから安心ということではないそうです。

新型コロナウイルスには新しい治療法でなくては有効な方法はないと研究開発が進められています。未だに決め手となる治療法は出ていないのが現状です。今後はコロナの合併症や後遺症と、ワクチンの副作用対策も課題となる可能性も考えられています。主な遷延症状・後遺症は女性に多いらしく、呼吸器症状・うつ症状・集中力低下・記憶障害・頭痛・倦怠感・味覚嗅覚異常・食欲不振・筋肉痛・脱毛その

他の不定愁訴など多彩のようで、周囲から理解されにくい辛さがあるようです。これらの対策としては、新薬を待つ間、古典的といわれるけれども、東洋医学の併用が便利かと推察されます。外部での若干の経験例ですが、これらの病態や個人に合わせて、集学的治療として、漢方薬や経穴経路治療を併用したことにより、QOLをサポート出来た症例が得られました。中国でも既に初期から漢方薬を利用して報告や、日本でも利用している施設や報告はあるけれど、中国同様にもマスキングなどには取り上げられないようです。これらの東洋医学の応用と、現代医療の集学的治療にて、社会復帰がスムーズにできる可能性が示唆されます。新薬などの新しい治療法が出来るまでの繋ぎとしては、漢方薬は副作用が少ない安心安全なサポート治療として、有用性が推察されます。小児を含めて年齢・合併症・病態などを考慮すれば、早期から自宅待機中や往診などにも利用できて、効果の出現も意外と早く、重症化の抑制も感じられるかと思われるま

きそうです。



作業療法科だより

作業療法士 吉田 祥子



お花が好きな患者さんを集い、生け花を行いました。花嫁修業やたしなみとして習っていたという方がほとんどで、お花の良い香りが漂う中、笑みをこぼしながら見事な手さばきで素晴らしい作品に仕上げられていました。

『池坊(流派)なの』『私もよ!』自然とお隣さんとの会話が始めると、お互いに作品を見せ合ったり感想を伝え合ったり、お花を通じての思い出話など会話が盛り上がり、皆さん若かりし頃にタイムスリップしたかのように心が弾む有意義な時間となりました。どの作品もとても素敵なものばかり。ぜひ他の患者さんやご家族の方、職員の皆さんにもお花を楽しんでいただければと、今回作品は1F談話室に展示させていただきました。今後も不定期に開催展示予定ですので、どうぞお楽しみに。



日常の  
一コマ



しづゑさんは現在86歳。群馬県に生まれ、8人兄弟の4番目として育ちました。子供時代は飛び切り足が速く、運動会ではいつも一位だったそうです。中学卒業後に上京して上野のデパートに就職し、24歳の時に紳士服縫製の職人だったご主人と結婚され、3人のお子さんに恵まれました。その後、ご主人が開業されたテラーで集金や送迎等を行う一方、着付け教室の師範としても活躍をされたそうです。又、ご主人が市議員を務めていた時にも支援者の気づかひや、選挙運動でご主人を支えておられたそうです。そんなしづゑさんが、80歳になった頃から軽い認知症状が出始めたそうです。そして3年前に脳梗塞を患い、昨年11月にリハビリ病院を経て、当院に入院をされました。

入院時には食思不振(食欲不振)や嚥下機能の低下により、思うように食事が取れずご家族もかなり心配されたようです。

当院では「食べる事が生きること」を原点にしていますので、しづゑさんの好む食べ物やよく食べるもの等をご家族と情報共有しながら食事の形態や種類をいろいろと試し、現在では補助食品とおやつを毎日食べられるようになりました。

ここ2年ほどのコロナ騒ぎで、ご家族との面会もままなりません。お誕生日や母の日にはご家族からお花やカードが届きます。その時のしづゑさんのとても嬉しそうな顔。そんな姿を見ている私たちも思わず笑顔になり、癒されます。(1病棟看護主任 佐藤 美沙子)

ももだより



5月から体調を崩して療養していたセラピー犬ももは、11月11日12歳で天国に旅立ちました。皆様、長い間ももを可愛がっていただきありがとうございました。もも、患者さん・ご家族・職員の心をたくさん癒してくれてありがとう!!